



森のなかま

2021年 9月号

NO. 159 (継続304号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

新理事長挨拶

佐藤 恭平 1期



やどりき水源林にて

新しく理事長に選任されました佐藤恭平です。

今日、地球規模で様々な問題が起こりつつあることから、子々孫々へと繋ぐ持続可能な社会を求める声が増えています。持続可能な社会実現の課題の中でも、森林の持つ公益的機能を高め維持し、安心安全な未来社会をつくっていくことは、重要な課題の一つです。

神奈川県は森林の持つ公益的機能を高めていくこと目的に「かながわ森林再生 50年構想（2006年～2056年）」をはじめとする諸施策を推進してきました。

かながわ森林インストラクターの会は、神奈川県の森林諸施策に沿う形で「森と人をつなぐ」のスローガンのもと「森林の持つ公益的機能を高め維持する」という社会課題に取り組んでいます。

当会に参加している会員諸氏は、神奈川県の養成講座を経て、森林インストラクターのとしての実務経験を積んでいることはもちろん、社会の様々な分野で活躍されている多才な方々です。会員諸氏の知恵と技術と力を結集し、会の活動を拡大し、汗をかいて、より強力に社会貢献していきますので、当会を応援していただいている皆様には今後とも変わらず当会の活動へのご支援をよろしくお願いします。

また、理事、監事、委員会、部会、事業部、事務局の役員一同は、社会貢献活動が充実したものとなるよう会員を支援していきますので、会員諸氏にはより積極的な活動参加をお願いします。

《かながわトラストみどり財団主催》

第 2 回森林インストラクターブラッシュアップ研修

森林体験学習等の野外活動における小学生児童への指導について

日時： 2021 年 7 月 31 日（土）10：00～15：00

場所： 海老名市文化会館 小ホール棟 1 階

（公財）かながわトラストみどり財団 藤本様、古館様

講師： 板倉 浩幸様 小学校教諭、CONE トレーナー、NEAL 主任講師

研修参加者 23 名

（記 写真 黒川 敏史^⑭）

1. 研修の概要

午前中は、「現代の子どもたちが必要とする体験を中心とした学び」と題して、現代の子どもたちを取り巻く状況、特性の話から始まり、体験を通じて学ぶことの大切さと体験学習の例についての話が有った。

午後は、「学校教育と連携する森林環境教育」について、学習指導要領の改訂の履歴と、その意図していること、体験が不足している子どもたちへの森林体験学習を通じた教育の在り方についての講義があった。

日頃実際に子ども達と接している小学校教諭である板倉先生によるわかり易く、熱意が伝わる話であった。



講師 板倉 浩幸氏

2. 研修内容

現代の小学生は、体格は年々良くなっているが、ボール投げなど、経験が必要な運動能力は下がっている。同様に自然体験(虫をつかまえる、海・川で泳ぐなど)の機会が少なくなっている。

明確なねらいをもって、自然体験活動を手段として用いて、主体的・対話的で深い学びを提供したい。(アクティブラーニング) これによって、希薄な人間関係・限定された行動範囲・成長に必要な体験の不足が改善されると見込まれる。また、森林 ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発を進めるのに必要な教育) の実践例についての話があり、パッケージプログラムをうまく使うことも助けになるとのことであった。

現代の子どもたちを取り巻く社会の変化を踏まえて学習指導要領が改定されてきており、最近では、アクティブラーニングが重視されており、総合的な学習の時間などのカリキュラムマネジメントの充実が求められている。

自然体験を通じて、学年が上がると共に 気づき→比較→関連→条件・制御→プランニングを身に付けてもらいたい。

その後、質疑応答の時間があり、インストラクターの皆さんからたくさんの質問が出て、熱心な議論が交わされました。

私としては、学校関係の森林体験を通じて、一つでも何かひっかかるものを生徒たちに提供できるように心がけたいと感じました



研修の様子

活動短信

今回の掲載はR3年6月29日から7月14日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

9月(長月)(旧暦8月葉月)の

二十四節気と七十二候

白露 9/7 頃

露が白く光り、セキレイが鳴き始めるころ。ツバメは南に去る。

秋分 9/22 頃

虫が冬ごもりの支度をし、稲刈りの準備が始まる。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

I インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 秦野市立堀川小学校

環境・エネルギー学校派遣事業

～かながわ環境教室～

森が『緑のダム』になることがわかる実験

日 6月29日(火)8:20～14:40 曇り

場 秦野市堀川105-3 堀川小学校

参 4年生3クラス88名および担任教師3名

I L井出①、高橋③、足立④、松本⑪

<実験の方法>

土だけの箱(A)と植物が茂った箱(B)に、じょうろで同じ量の水をかけさせ、それぞれの箱の表面から流れ出た水と、土の中に浸み込んでから流れ出た水が、計量バケツに貯まるのを観察させる。

<実験結果>

- ① 植物が茂った箱(森がある)の方が、ない方に比べて約3倍の水を貯める。



- ② 土だけの箱(森がない)の表面から流れ出る水は茶色く濁っている。
③ 植物が茂った箱(森がある)の地中に浸み込んでから流れ出る水は透き通ってきれい。

森があることで、降った雨水の多くが浸み込んで土の中に貯めこまれ、その水がきれいな水になって徐々に流れ出るのを目の当たりにすることで、森の「緑のダム」としての働きが実感できたと思います。

<解説>

大型モニターに、手入れがされた人工林とされていない人工林のスライドを映し出し、「緑のダム」としての機能を維持するうえで、森林の手入れが大切であることの解説を行いました。

3クラスあるため、以上についてクラスごとに計3回実施しました。

(記・写真:井出 恒夫 ①)

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載は10月号です。

森のめぐみ シリーズ



◆ 相模原市立内出中学校

環境・エネルギー学校派遣事業

～かながわ環境教室～

森が『緑のダム』になることがわかる実験

- 日 7月2日(金)14:30～16:45 曇りのち雨
 場 相模原市緑区下九沢 2845 内出中学校
 参 部活動(科学部)の14名および教師2名
 イ L井出①、高橋③、足立④、星野⑬

<実験のねらい>

森があることで、降った雨水の多くがしみ込んで土の中に貯めこまれ、その水がきれいな水になって徐々に流れ出るのを目の当たりにすることで、森の「緑のダム」としての働きを実感させる。

<実験の進め方>

- ① 導入：対象が中学生の部活ということで、実験レポートの書き方(目的、方法、結果、考察)を説明し、それに沿って実験を行った。
- ② 実験：ジョウロで両方の箱に同じ量の水をかけさせ、それぞれの箱の表面から流れ出る水と、土の中にしみ込んで下から流れ出る水が、それぞれ別々の計量バケツに貯まるのを観察させた。(流れ出る速さ、水の色を観察)
- ③ まとめ：4つの計量バケツに貯まった水の量を測定し、森がある土地の方が多くの水を貯め、徐々にきれいにして流す「緑のダム」になることを、数量的裏付けを示して理解させた。(実験結果：森がある方がない方に比べ、約5倍水を貯めることが分かった。)



- ④ 解説：森林の土壌が雨水を浸透させる能力、人工林の手入れと「緑のダム」としての働き、「人工のダム」と「緑のダム」それぞれの役わりなどについて、大型モニターを用いて解説した。

(記：井出 恒夫 ①、写真：星野 澄佳⑬)

◆ 第5回 県民参加の森林づくり(下刈)

- 日 令和3年7月10日(土)9:40～13:20 曇り
 場 山北町都夫良野(共和財産区有林)
 参 46名
 財 豊丸課長、大木様
 看 青木 看護師
 スタッフ 山北町農林課 尾崎様、相原様、

共和財産区 杉本様、山北町森林組合 2名

- イ L 江上⑬、岩田⑭、竹内⑮、内野⑨、水野⑭、石川⑫、大友⑯、小野⑦、原田⑯、上田⑩、黒川⑭

7月3日の熱海市伊豆山での大規模土石流災害や当日も西日本での記録的大雨が報じられ、不安な気持ちで山北駅に到着した。時折薄日が差し気温はぐんぐん上昇、不快指数100%。

バスは定刻より少し遅れて山北駅を出発し、共和財産区「苗木の学校」が見下ろせる場所で途中下車。広葉樹植栽苗を実生から育成している話を聞き、これから向かうフィールドの樹木達に思いを寄せた。

現場に到着し、共和財産区会長杉本様より「災害に強い森づくり」「野生動物が安心して暮らせる森づくり」を目指し人工林から広葉樹林へ転換する里山再生のお話を伺い、ボランティアへの期待を感じ強い使命感に燃えた。



5班に分かれ広葉樹植栽地(クヌギ、コナラ、ヤマザクラ)約0.3ha、草木は大人の背丈近くあるものを大鎌で刈り上げた。足元が悪く急傾斜地では、バランスを崩し転倒する方がいたが、インストラクターや経験者のアドバイスを聞き、再び取組んでいた。

定刻に作業を終えバスに乗車して県立山北つぶらの公園へ移動。山北町農林課様よりご挨拶と町営さくらの湯無料入浴券のご案内を頂く。絶景を眺めながら昼食をとった後、山北駅で解散した。高校生グループや親子の参加者は「また参加してみたい」と嬉しい声もあった。ボランティアの皆様、蒸し暑い中での作業ご苦労様でした。

作業中に気分が悪くなった参加者1名が看護師の処置を受け、その後回復した。夏場の高温多湿時のボランティア活動は、安全と体調管理の重要性を感じた。
(記 写真 大友 博道⑩)

◆ 厚木市立相川小学校 (NW 活動)
相川の森・再生活動「土壌生物観察」

日 7月12日(月)9:00～12:20 曇り
場 厚木市岡田5-10-1 相川小学校
参 6年生2クラス42名、教師2名
イ L井出①、高橋③、堀江④、星野⑬

<主たるテーマ>

土壌生物の観察や、土壌生物をベースとした自然の豊かさの調査を通して、生き物のつながりや生態系について学ぶ。

<指導内容>

- ・班分け:6班に分け、2班にインストラクター1人がつく。
- ・班ごとに指定された場所で土を集める。(落葉プール、朽木の下、植物廃棄場、花壇、学校林等)
- ・教室に採取した土を持ち込み、白シートに土を広げて土壌生物を採取。
- ・見つけた生物をワークシートに記入し、点数を集計。(環境変化に敏感な生物は点数が大きく、劣悪な環境にも耐えられる生物は点数が小さい。)
- ・集計した点数より、その場所の自然の豊かさを判別。(点数が高く自然が豊かなことを確認。)
- ・モニターにプレゼン資料を映し出し、生物の多様性と環境と自然のつながりについて解説した。



<感想>

相川小学校には環境教育に熱心な先生がおられ、数年前から”落葉プール”の作成や、土壌生物観察でインストラクターの派遣要請をいただいています。今後も、協力関係を続けて行きたいと思います。

(記・写真:井出 恒夫 ①)

◆ 神奈川県立高津養護学校生田東分教室
環境・エネルギー学校派遣事業
～かながわ環境教室～
「水の中の生き物ウォッチング」

日 7月14日(水)9:00～12:00 曇り
場 川崎市立生田中学校(校内のビオトープを借用)
参 高校1～3年20名および教師6名
イ L井出①、高橋③、堀江④、宮本④、内野⑨
星野⑬、國弘⑭

1. 事前準備: 何らかのハンディを持った生徒が対象ということで、事前準備は入念に行った。

- ① 生徒は20名だが、細かいフォローが行えるようインストラクターは7名とし、授業テーマに経験があり、特別支援教育に理解があるインストラクターに参加要請した。
- ② 実施場所が校内に無いということで、池やビオトープがある近隣の公園・学校などを調べ提案した。場所の選定、実施許可願いは学校にお願いした。
- ③ 実施場所の確認(下見はインストラクター全員で行った。実施場所の生田中学のビオトープは、池周辺が泥で滑りやすく急に深くなっているため、網での採取はインストラクターが行い、生徒は採取した泥などの中から、生き物を抽出するようにした。)
- ④ 生徒のレベルおよび実施場所に合わせた資料を作成した。

2. 授業当日

- ① ビオトープでインストラクターが網で採取し、生徒が生き物を抽出。
- ② 抽出した生き物を隣接する施設に持ち寄り、密を避け2グループに分けて、インストラクターによる解説と、観察眼を養う目的で生き物のスケッチを交互に実施した。(各30分)
- ③ 解説は、生き物の繋がりなどについてPPTのスライド15枚ほどで実施。

3. まとめ

養護学校の高校生が対象ということで、事前の準備を入念に行い(インストラクター全員で現場の確認を行うなど)、生徒・教員にも満足いく活動ができたのではないかと思います。

(記:井出 恒夫 ①)

会員の皆様からの寄稿のページ

「私の初心」

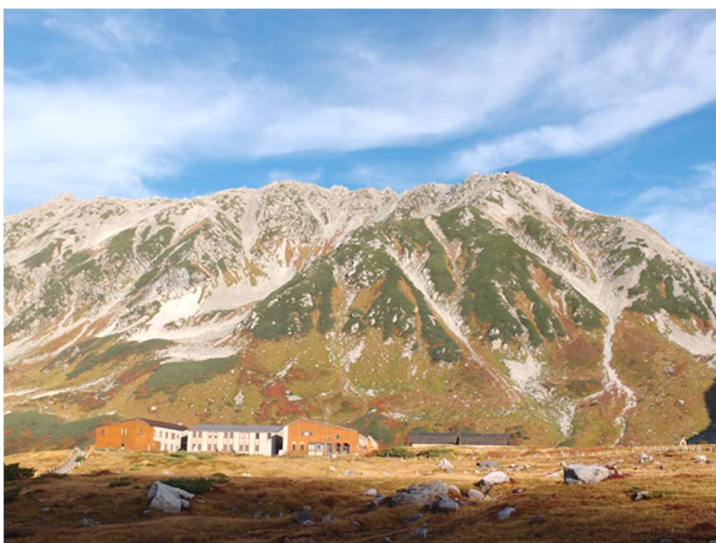
会員の皆様から頂いた寄稿を掲載いたします。

インストラクターへのきっかけ

田中 嵩大 16期

「YOU、森林インストラクターになっちゃいなよ」
実際はこんな某社長のような言葉ではありませんでしたが、このような提案がきっかけで「かながわ森林インストラクター」の門を叩くことになりました。

2017年9月、私は妻と一緒に訪れた北アルプス立山の山小屋で、偶然にもかながわ森林インストラクターの方と同じ部屋になりました。その方も奥様と一緒に来ていて、私たちにいろいろと話をしてくださり、その中でかながわ森林インストラクターとして活動しているという話題になりました。祖父母の家が三重県の山間部にあり、そういった環境に親しみと興味があった私は、森林インストラクターの活動話にとっても興味を持ち、ワクワクしたのを覚えています。そう言った流れの中で、冒頭のお話がありました。あまり即答しない私ですが、「なります」と二つ返事をしていました。



立山 手前が出会いの場となった山小屋

山小屋の早い夜は更け、私と妻は次の日の早朝、立山に向かって発ちました。昼過ぎに山小屋に帰ってくると、残しておいた荷物の上に、干し柿がメッセージを添えて置いてありました。ご自宅で作られたそうで、大変美味しくいただき、森林インストラクターへの印象は一層強まったのでした。

その日に下山した私は、早速かながわ森林インストラクターを検索し、まもなく16期の候補生となり、晴れてかながわ森林インストラクターとなりました。

ただ、1つの宿題がまだ解決されていません。まだ、山小屋でお会いした方にはご挨拶できていないのです。

間抜けなことにお名前を聞いていませんでした。覚えているのは、「小田原に住んでいる」、「干し柿を作っている」、「私の親よりは高齢(当時の時点で65歳を超えている)」という曖昧な情報のみ。お会いすれば、とは思うものの、コロナ禍でインストラクターの集まるイベントも中止になり、たくさんの先輩に会う機会も限られています。実は研修などでお会いしているのにも関わらず、気づいていない可能性もあります。

この拙文を読んでもらった方はこのことを少し心に留めていただき、当てはまりそうな方をイベントなどで教えていただけると嬉しいです。

もちろん、大変恐縮ではありますが、立山の山小屋でそういう話をしたことがあるという心当たりのある方からのご連絡を心よりお待ちしております。

(記、写真 田中 嵩大[Ⓔ])

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>



いも自然も 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人がお待ちしています。
水源林にお出かけください。

「やどりき水源林ニュース」



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news188.pdf>

8月号が発行されました。
涼やかな水辺と豊かな緑の水源林です。

●問合せ：
(公財)かながわトラスティみどり財団
TEL：045-412-2255
FAX：045-412-2300
●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
E-mail：midori@ktm.or.jp

8月号の訂正とお詫び

8月号の紙配信に誤記がありました。
訂正し、関係者にお詫びします。

記事 「前理事長退任の挨拶」

誤) 石川 実さん
正) 石井 実さん

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel：080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先：080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel：045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受付けています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集後記

★オリ、パラ、酷暑、風水害、そしていつまで続く？コロナ。神奈川がつい先日東京を越えました。コロナ感染者で。感染者は自宅放置！入院の増加など先手の対応をしてないなんて・・・

もう、こんな愚痴もここに書くのは嫌になってます。

(吉田)

★蒸し暑い日が続いております。夏バテで食欲もない時にはツルツルのそうめんですね。今そうめんはブームだそうです。専門店ができ、ネットでもエスニックな味付けなど色々出てきます。でも 美味しいのはシンプルな麺つゆにミョウガが一番！

(笠原)

★生まれ故郷の隣村の、合併もせずに頑張っている(長野県上水内郡小川村)の明松寺の和尚さん一家(佐藤さん)から、息子さんが、今回の2020TOKYO馬術競技に出場しました。北京五輪以来の出場です。なお、お兄さんもロンドン五輪に出場しています。

お父さんが1964年の東京五輪馬術競技でめざめ、お寺の裏山に馬事公苑をつくり、子ども達も期待に応え2人がオリンピックに出場しました。あっぱれ！！です。

(松本)

★台風が熱帯低気圧に代わっても各地で大雨の被害をもたらしました！

8月後半はまだ猛暑とのことですが、それでも夜になると虫の音が聞けるようになりました。

涼しくなるのももう少しですね。

(阿藤)

★人間の記憶なんて当てにならない。今年の異常な暑さは近年一番だと思っていたら、日記を見返すと、去年は長梅雨が開けた8月1日から猛暑が続き、雨は時折パラッと降るだけ。今年は梅雨の戻りみたいな雨のお陰でまだマシなんです。文句や愚痴も程々にしなくては。しかし・・・暑い！

(竹内)

★最近、毎朝ごはんを土鍋で炊くのがルーティンになってます。ガス台で炊くので、火加減と時間管理ですが、ちょっと気を許すとお焦げができます。でもやっぱりおいしい。と自己満足してます。

(黒川)

編集人：黒川 敏史

広報部：吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫

武田昭典 中澤良夫

支援：大原正志 江頭淑子